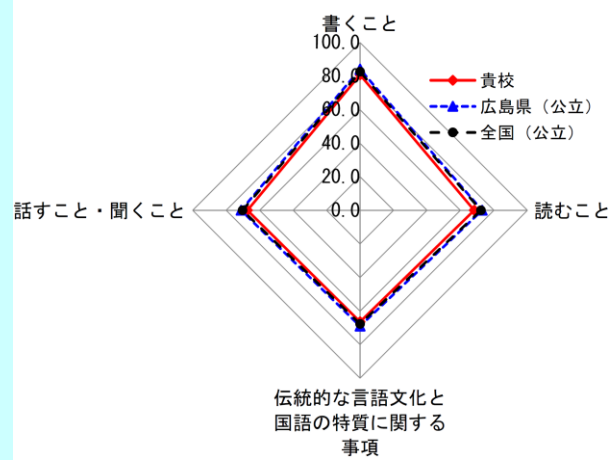


# 指導方法等の改善計画について 〔国語科〕

## 全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	70%
全国	72.8%
県	74%



## 本年度の結果について

### ○全体的な傾向

全体の正答率は70%で、県平均を4ポイント下回っている。問題形式別に見ると、選択式の問題が県平均73.8%に対し、68.2%と5.6ポイント下回っているものの、短答式の問題は県平均59.0%に対し、60.7%と1.7ポイント上回っている。また、記述式の問題は県平均78.7%に対し76.9%と1.8ポイント下回っているが、選択式ほどの差はない。問題別に見て、最も県平均との差が大きいのが1の二と4の二間で、この二つは選択肢の中から正しいものを二つ選ぶという問題だった。

### ○昨年度の課題への取組の成果

昨年度は、「接続語に着目して説明文を読むこと」に課題があった。これを解決するため、説明文を取り扱った授業において、接続詞を手がかりに答えがいくつあるかを探したり、具体がいくつあるかを探したりする授業を展開した。しかし、今回の調査においては、説明文や小説といった文章問題は出題されなかった。

## 重点課題 全国学力・学習状況調査

課題は、選択式の問題について適切な解答を選び出すことができていないということである。今回の問題で、4ポイント以上県平均より低い値を示した問題は、全て選択式の問題であった。選択式の問題ができない原因として考えられるのは、本文の読み取りが不十分であるか、選択肢の読み取りが不十分であるかのどちらか、あるいは両方で、その結果として、**選択肢を本文と照らし合わせ、真偽の判別をすることができない**ということである。

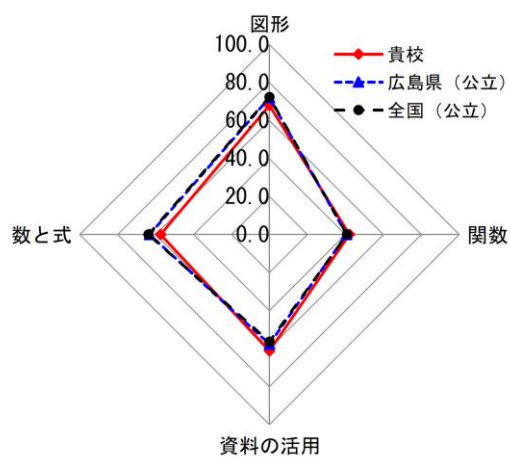
最も県平均との差が大きかった1の二の問題は、選択肢2と5が正解であるが、誤答のうち2のみ選んだのが13.1%、5のみ選んだのが4.7%に対し、2と5を選んだ上でその他も選んでいたのが20%だった。正答以外で最も多く選ばれていたのが選択肢4「いろいろな料理が詰められているので、食べ物の風味を保つことができる。」であったが、これについては、「いろいろな料理が詰められている」も「食べ物の風味を保つことができる。」もどちらも本文中に存在する表現であるが、両者の間に因果関係はない。別の段落で、異なる事象を説明するために用いられた表現である。しかし、文章全体を漠然ととらえ、段落ごとに意味をとらえて選択肢と比較することができていなければ、本文の記述と一致すると思込みかからない。一方で、ほとんど選ばなかった選択肢1「インターネットを利用して、さまざまな国の弁当を取り寄せることができる。」は、本文に「弁当を取り寄せる。」という記述がないため、間違える生徒が少なかったのではないかとと思われる。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

文章を読みきる力のない生徒が一定数いると思われるので、まずは短い文から読みきる練習をさせる。具体的には、授業初めの5分間で短い文を読ませ、内容を読み取った上で1問か2問、簡単な内容把握の問題に取り組ませる。選択問題については、なぜその解答を選んだのか、根拠はどこか、その他選ばなかった解答は本文の叙述のどこと相反するのかということも考え、これまで漠然と選んでいた選択肢を、根拠を持って選ぶよう徹底させる。また、スキドクの時間を視写の時間に充て、文章を読みきる力だけでなく、集中力や段落構成を意識する力についても育成していく。

正答数分布グラフを見ると、正答数が10問（全問正答）の生徒の割合は、県平均を2.6ポイント上回っているが、9問は4.4ポイント、8問は7.9ポイント下回っている。一方で、正答数半数以下の5問の生徒が7ポイント、4問の生徒が4.2ポイント上回っており、これらの生徒を押し上げることで、全体の正答率を上げて行くことが可能になる。そこで、さまざまな調査・試験において、5割前後の点数の中間層の生徒をピックアップし、少し長めの文章の読み取りを補充学習として行っていきたい。

【全国学力】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年・中間試験		3年・期末試験	3年・学年末試験		
目標値		60%		65%	70%		
実施後数値		61%/38%		72%	73%		



## 全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校 **58%**  
 全国 **59.8%**  
 県 **60%**

## 本年度の結果について

- 全体的な傾向  
 正答率は、本校 58%、全国 59.8%、広島県 60%と、約 2p 下回っている。  
 領域別に見ると、すべてにおいて全国や広島県に比べて下回っているのではなく、数と式で 6p、図形で 4p 程度下回っているが、関数で 1.5p、資料の活用で 5p 程度上回っている。
- 昨年度の課題への取組の成果  
 昨年度は、関数、資料の活用の領域が課題であったが、どちらの領域とも正答率が、全国、広島県より上回っており、ある程度の成果が挙げられたと考えられる。

## 重点課題 全国学力・学習状況調査

【課題 1】 ②  
 簡単な連立二元一次方程式を解き、解を求める問題  
 《 正答率 59.8% (全国 70.1%) 》

【課題 2】 ⑦ (1)  
 証明の根拠として用いられる三角形の合同条件を書く問題  
 《 正答率 62.6% (全国 75.8%) 》

※課題 1, 2 とも正答率はそれほど低くないが、全国よりも 10p 以上下回っている。

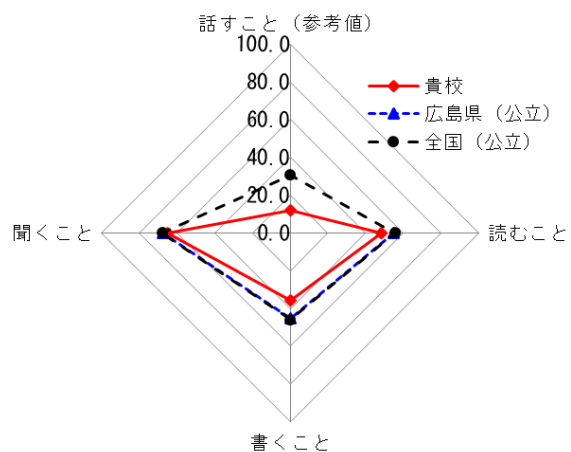
## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題 1】  
 連立方程式の解のどちらかのみ正答している解答が 4.6%で、文字に数を代入する場面か、一次方程式の計算過程で間違いがあることが分かる。また、解答類型にない解答をしている生徒が 26.2%、無解答が 7.5%で、約 30%の生徒が、連立方程式の解き方を理解していない。二次方程式の導入で、一次方程式、連立方程式の復習をする。また、授業で毎時間行っている小テストにおいて、一次方程式、式の値、連立方程式の問題を出題し、生徒の状況を見て、丁寧に解説する。

【課題 2】  
 三角形の合同条件を正しく書かなければ正答にはならない問題である。解答類型にない解答と無解答の生徒を合わせると 28%であり、三角形の合同条件を覚え、それを正しく表現することができていない。3 年生の相似な図形の単元で、三角形の合同条件をふくめ、図形における様々な条件を復習する。声に出して言わせたり、小テストを実施したりして確認する。

【全国学力】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2学期中間試験	2学期末試験		学年末試験		
目標値		課題 1 65%	課題 1 68% 課題 2 70%		課題 1 70% 課題 2 75%		
実施後数値		課題 1 63%	課題 1 70% 課題 2 83%		課題 1 72% 課題 2 82%		

# 指導方法等の改善計画について〔英語〕



## 全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校 49%  
 全国 56%  
 県 56%

## 本年度の結果について

○全体的な傾向  
 全体の正答率は49%である。全国平均は56%であり、7%下回っている。領域別に見ると、『書くこと』が最も正答率が低く、35.9%であった。全国平均は45.3%であり、最も開きがあるのもこの領域であった。また、全体の知識を問う問題の中でも、「一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文」に関する問題と、「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く」問題に関しても、正答率が30%未満であった。

○昨年度の課題への取組の成果  
 昨年度は、「図やグラフ、表から情報を読み取る力」や、「既習事項の文法を活用して自身の意見や考えを述べる力」に課題があった。基礎的な文法項目の定着に未だ課題が残る。

## 重点課題 全国学力・学習状況調査

- 【課題1】『書くこと』  
 ⑨ 与えられた情報に基づいて3人称単数現在形の肯定文や否定文を正確に書く。  
 《 正答率 32.0% (全国 55.8%) 》
- 【課題2】『聞くこと』  
 ④ 聞いて把握した内容について、適切に応じる。  
 《 正答率 0.9% (全国 4.0%) 》

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題1】本設問において、(1) から (3) の平均正答率は約 32%であった。一方で無回答率は 6%未満であり、誤答や単語の書き損じが多くあったと考えられる。また、与えられた情報に応じて語形を変化させる力が不足している。既習事項の復習と、時制や主語に伴い変化する一般動詞の定着を目指す。授業内では帯活動などを通してパターンプラクティスを多用し、場面や状況に応じて正しい文を書く力を育成する。

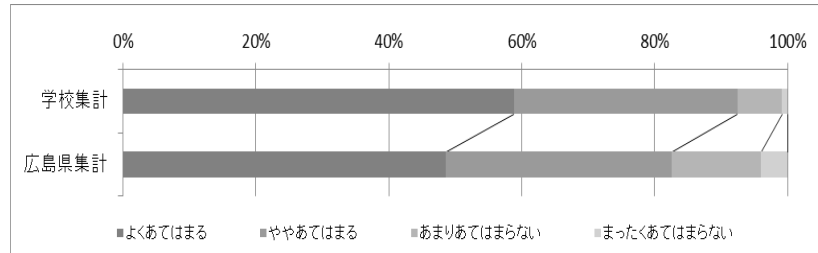
【課題2】本設問ではまず英語のスク립トを聞き、その状況に応じた自身の意見や一般的な考え方を英語で正しく書く力が求められる。正答率 0.9%、また無回答率は 30.8%である。『聞くこと』の領域では、設問になり得る箇所や重要な箇所をメモをとりながら聞いたり、何が答えとして適切かを文中から読み取ったりする力が求められる。授業内で、領域を問わず教科書の本文導入の際に音声指導から入るなどして、鍵となる言葉を探し、要約するといった活動を取り入れていく。

【全国学力】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2学期中間試験	2学期末試験		学年末試験		
目標値		【課題1】 60% 【課題2】 65%	【課題1】 65% 【課題2】 68%		【課題1】 68% 【課題2】 70%		
実施後数値		【課題1】 52% 【課題2】 72%	【課題1】 57% 【課題2】 71%		【課題1】 52% 【課題2】 60%		

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査）

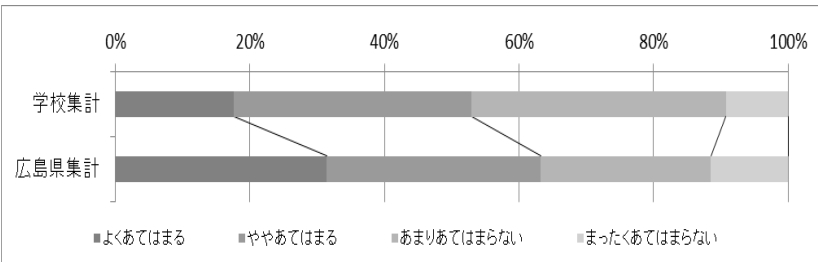
(1) 生活・学習

自分の住んでいる地域のことが好きです。

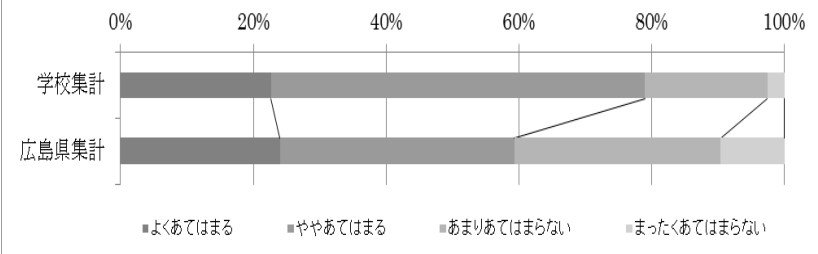


(2) 教科

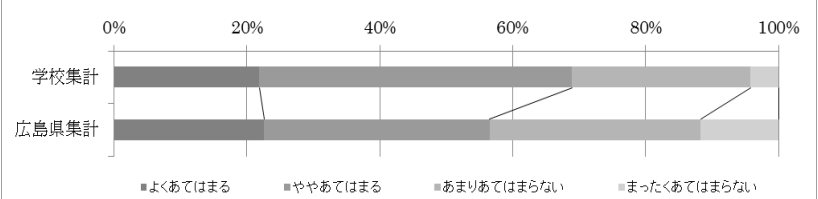
国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。



数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検定期	実績値	現状からの伸び
基礎・基本	「自分の住んでいる地域のことが好きです」において肯定的評価が92.4%の回答であった。「よくあてはまる」が県平均に比べ高いが、58.8%であった。昨年度の同調査項目では「よくあてはまる」の現状値が47.7%であった。しかし、検証実施数値は15%で現状値からの伸びが約-32%であった。昨年の災害を受け、地域について思う気持ちが不安定になっている。	体育祭では自分たちの頑張る姿を見てもらい、仲間と共に地域に力を与えていることを自覚できるよう活動させ、文化祭では、地域の保育園との交流や、職場体験等、地域の協力を得て体験させていただいた学習内容を還元し、地域に育まれていることを自覚できるようにさせ地域への愛着を感じさせる。	2	よくあてはまる 60%	生徒へのアンケート	2月	51%	-9
全国	「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」において「よくあてはまる」と答えた生徒は15.9%で、全国と比べると、約5p下回っている。	総合的な学習の時間において、自ら課題を見つけ、解決方法を考えるなど、主体的に取り組ませるような授業を展開していく。	3	よくあてはまる 25%	生徒へのアンケート	2月	52%	27

	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検定期	実績値	現状からの伸び
国語	基礎・基本「国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。」に対する肯定的回答が、県集計63.2%に対し、本校52.9%であった。	言葉を調べる課題を出す際に、辞書を活用して調べるよう指導する。また、授業の中でも、辞書を活用して調べる学習を積極的に取り入れ、指導していく。	2	70%	教科授業アンケート	2月	71%	1
	全国「文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落同士の関係を考えたりしながら読んでいきますか。」に対する肯定的回答が73.8%であった。	正しい選択肢を選ぶ問題で県平均を大きく割っていたにも関わらず、「必要な語や文を見つけたりしながら読んでいます」と解答しているため、必要な情報を確実に取り出せるように指導していく。	3	80%	教科授業アンケート	2月	95%	15%
数学	基礎・基本「数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。」の「よくあてはまる」の肯定的回答が、県集計24.0%に対して、本校では22.7%であった。	ペアやグループ学習の場を設定し、生徒が解き方や考え方を説明する機会を増やす。机間指導を行い、生徒が解き方や考え方を整理できるように指導する。	2	前回より5p増	教科授業アンケート	2月	30%	7%
	全国「数学の勉強が好きですか」において、肯定的回答が80%を下回っていた。	学習規律を徹底し、授業に対する意欲を高める。毎時間小テストを実施し、基礎的基本的な力を身につけさせた上で、単元の導入やまとめにおいて、数学の楽しさ、面白さ、達成感、充実感を感じられるような授業を展開する。	3	70%以上	教科授業アンケート	2月	94%	18%
英語	基礎・基本「英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。」の「よくあてはまる」の肯定的回答が県集計22.6%に対して、本校では21.8%であった。	本文の内容を導入する時に5W1Hを意識して聞かせる。さらに、概要を読み取らせることができるようなワークシートを作成し、活用する。単元の終わりの振り返りで、感想や意見を書き、ペアやグループで共有する時間を作る。	2	よくあてはまる 30%	教科授業アンケート	2月	47%	25%
	全国「授業の理解度において、「英語の授業はよく分かる」の質問項目において肯定的な回答をした生徒の割合が62.6%と、全国・県平均を約5%下回っている。	授業の理解度や既習事項の定着が十分でないことが意欲低下につながっていると考えられる。復習を帯活動に取り入れ、日々の授業の中で基礎的な力を身につけさせる。	3	肯定的回答 70%	教科授業アンケート	2月	80%	17%